

2020年5月10日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 84 : 5

ルカによる福音書 8 : 19~21

「イエスさまの家族」

<イエスさまの家族って？>

イエスさまの家族、と言ったら、みなさんは誰を思い浮かべるでしょうか。

今日の聖書箇所には「さて、イエスのところに母と兄弟たちが来たが」とありました。

まず、「母」と言えば、ルカによる福音書で最初から登場したイエスさまの母マリアです。マリアは、ヨセフという人と婚約をしていた時に、聖霊によって身ごもり、イエスさまを生みました。イエスさまは、神の独り子ですが、神さまの救いを実現するために、まことにわたしたちと同じ人間となって、マリアという一人の女性から生まれ、この世に来られたのです。その母マリアです。

そして、その後にマリアと夫ヨセフの間には、イエスさまの兄弟が生まれていることが分かります。マルコによる福音書 6 : 3 で、少し詳しく出て来ます。そこには、イエスさまの故郷であるナザレの人々が、「この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」と言っている場面があります。兄弟と、妹たちもいたのですね。

30 歳ごろになってイエスさまが伝道の旅に出られるまでは、イエスさまも、わたしたちが家族の中で育ち、生活し、生きているのと同様に、ご自分の家族と一緒に生活を営み、暮らしておられたのです。

さて、その家族がみんな、各地で伝道の旅をしておられるイエスさまに、会いに来ました。マリアの夫ヨセフは出てこないのも、もしかしたらこの時はもう亡くなっていたかも知れません。今日は、そのような場面です。

<マルコ福音書との違い>

ところで、同じ場面が、マルコによる福音書の 3 : 31~35 にも語られています。

実は、マルコによる福音書では、家族がイエスさまの所にやってきた理由が分かるように語られていました。それは、各地で伝道しているイエスさまを連れ帰ろうとした、ということのようです。

その聖書箇所の少し前のところには、御言葉を教え、人々の病を癒したり、悪霊を追い出したりしているイエスさまのことを、「あの男は気が変になっている」と言われて、身内の人たちがイエスさまを取り押さえに来た、という場面があります。

本当は、もしヨセフが亡くなっているとしたら、イエスさまは一家の長として家族を養ったり、面倒をみるべき立場です。それが、30歳くらいになって急に家を出て、各地で「神の国は近づいた」ということを教え、神の力によって癒しの御業などを行なっておられるのです。

イエスさまが救い主である、ということを受け入れない人々は、それを悪魔の力だと言ったり、「気が変になっている」と言って批判したりしたのです。

それを聞いてやって来たイエスさまの母マリアと兄弟たちは、大勢の人たちに囲まれているイエスさまを連れ帰るために、外へ呼び出そうとしました。

しかしイエスさまは、「外でご家族があなたを捜していますよ」と誰かが声をかけると、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と言われます。

そして、イエスさまの周りに座って、その御言葉に耳を傾けていた人々に、「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行なう人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ」と言われたのです。

マルコによる福音書では、イエスさまの御言葉に耳を傾けている人々、まさにそれが、神の御心を行なう人のことであり、そのような人々と、外に立ってイエスさまを呼び出し、自分たちの思いや、周りの人々の声に従って、イエスさまを連れ帰ろうとしている家族が、とても対照的に描かれています。

この、神の御言葉に対する人々の態度と、家族の態度の違いが、マルコではとても強調されているのです。

<ルカ福音書の強調>

しかし、ルカによる福音書は、もっとシンプルにこの記事を述べています。

また、マルコとはこの出来事が語られる順番が違ってきます。ルカは8章に入ってからイエスさまが語られて来た、種を蒔く人のたとえと、ともし火のたとえ。つまり「神の言葉をどう聞くべきか」という教えの後に、このことが語られているのです。

そういうマルコとルカの書き方の違いから、ルカが何を強調したいかが見えてきます。

ルカは、イエスさまは、マリアや兄弟たち家族と、イエスさまの周りを取り囲んでいる群衆を、そんなに対立的には描いていません。家族の態度を批判する思いもないようです。

ということは、ルカがとにかく伝えたいのは、イエスさまが「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行なう人たちのことである。」と仰ったことです。

イエスさまに近付くためには、イエスさまと共に生きる者となるためには、イエスさまと血縁であることや、肉親である、ということ、つまり何かの資格とか、特権などは一切ないということです。

イエスさまは「神の言葉を聞いて行なうなら、その人はわたしの家族だ。血縁より、もっ

と深い、もっと強い、神の言葉によって結ばれた神の家族だ。」そう言っておられるのです。

肉親の家族も、またイエスさまのもとに来た群衆にも、そして今ここにいるわたしたちにも、イエスさまは「神の言葉を聞いて、それを行なって、わたしの家族になりなさい」と、招いておられるのです。

<神の言葉を聞いて行なう>

では、「神の言葉を聞いて行なう」とは、どういうことなのでしょう。わたしたちは、何を聞いて、何を行なえば、イエスさまの家族になることが出来るのでしょうか。

わたしたちは、「神の言葉を行なわなければならない」と聞くと、イエスさまが平地の説教で語られた「敵を愛しなさい」とか、「人を裁くな」とか、「赦しなさい」とか、つい自分にとって実行困難なことを思い起こすのではないのでしょうか。

そして、敵を愛するどころか身近な人さえ愛していない。人を裁かないどころか人の欠点を見つけてはつぶやく。誰かを赦すどころか怒りや苛立ちを押し殺している。そんな自分の現状をつい見つめてしまうのではないのでしょうか。

やはり自分では中々神の言葉を実行できない。自分は神の家族にふさわしい者とは程遠いのではないか。そんな不安を抱いてしまいそうになります。

しかし、まず思い起こしたいのです。「神の言葉」とは、何だったのでしょうか。

それは父なる神さまの言葉であり、救いの約束です。イエスさまを世に遣わして、わたしたちを罪から解放し、恵みのうちに支配する。その、良い知らせのことです。

8章1節にも「イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた」とありました。

神の言葉とは、イエスさまの神の国、つまり、神さまの恵みのご支配。そして救いの良い知らせである「福音」のことなのです。

では、「神の言葉を聞いて行なう」とは、どういうことになるのでしょうか。

イエスさまが語られた神の国。神のご支配。これを、わたしたちが「行なう」なんていうことは出来ません。イエスさまが救って下さるという良い知らせ。ここでわたしたちに出来ることは、何もありません。

イエスさまが、わたしたちを罪と死の支配から救い出し、恵みによって支配するお方です。そのために、父なる神さまはイエスさまをこの世に遣わされたのです。イエスさまが、ご自分の十字架によって罪を解放し、復活の命を与えて下さる。イエスさまが、神の国を実現して下さる。イエスさまが、救い出して下さる。そう語っているのが、神の言葉です。

そうだとするならば、わたしたちは、神の言葉を聞いて、何をすることができるのでしょうか。わたしたちは、この知らせを聞いたなら、信じて、受け入れることしか出来ないのです。

しかし、まさにそのことこそ、神さまがわたしたちに望んでおられることなのです。

神さまは、わたしたちが罪に捕らえられ、神さまから離れ、滅びていくことを良しとされません。創造し、命を与え、生かして下さっている。神さまはわたしたちを、愛して下さっているのです。

そのために、御子イエスさまが罪に捕らえられ、神さまから遠く離れてしまったわたしたちのところまで、御自身が来て下さり、わたしたちの重荷をすべて背負い、わたしたちを担い、救い出して下さるのです。

わたしたちに出来ることは、救いを受け取り、この方に身を委ねることだけです。

そうして、神さまの愛を受け取ること。イエスさまの救いにあずかり、神さまのものとされること。それが、わたしたちが「神の言葉を聞いて行なう」ということなのです。

それは、8章のたとえでも語られてきたことです。神の言葉という種を、イエスさまが蒔いて下さるから、それをしっかりと受け取りなさい。神の言葉、種そのものに力があるから、それを受け止め、守り、忍耐強く待っていなさい。そうすれば、百倍もの実を結ぶ。

また、ともし火は必ず人の目につくところに置かれ、人々を照らす。神の言葉は、いつか必ずすべての人に明らかにされ、いつか必ず救いが実現する。だから、神の言葉を信頼して、期待して、希望をもって聞きなさい。そうすれば、さらに豊かな恵みが与えられる。

これが、8章でイエスさまがこれまで教えて来られたことです。

<イエスさまの家族に>

そして、イエスさまは言われたのです。「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行なう人のことである。」

神の言葉を聞いたなら、信じなさい。受け取りなさい。信頼して、待っていなさい。必ず救いは実現する。わたしが十字架であなたの罪を贖い、わたしの復活の命にあなたを招く。あなたをわたしのものとする。わたしに繋がっていなさい。わたしに結ばれなさい。

このように、わたしたちは、罪の只中に来て下さったイエスさまの神の言葉を聞き、信仰によって、聖霊によって洗礼を受け、イエスさまと一つとなることが出来るのです。わたしたちも神の子と呼ばれる者になるのです。わたしたちも、神の独り子イエスさまと結ばれることで、父なる神さまの子どもとなり、イエスさまと兄弟になるのです。神の家族に加えられるのです。イエスさまの家族になるのです。

わたしたちは、自分の力で神の家族になることは出来ません。自分の罪を贖うために何もすることは出来ません。自分を救うことは出来ません。

しかし、神の言葉には、それが出来ます。わたしたちを罪の奴隷から、神の子にして下さることが出来ます。神の言葉は実現します。救いはイエスさまによって成し遂げられます。神の言葉は、わたしたちを罪と死の支配から、神の恵みの支配の中へと移して下さることが出来るのです。

人の罪を赦し、永遠の命を与え、新しくする力が、神の言葉にはあります。イエスさまにはあります。敵を赦すこと、人を裁かないこと、赦す者となることも、この神の力をわたしたちが受けて、救いに与って、新しい者とされて、イエスさまと共に生きる者となることで、はじめて成すことが出来ることなのです。

この神の言葉。神のご支配。救いの恵み。良い知らせを、あなたたちは聞いて、受け入れなさい。神が与えて下さるから、自分のものとして受け止め、しっかりと持っていなさい。わたしと共に生きる者となりなさい。そうして、わたしの家族になりなさい。

そのように、イエスさまは、わたしたちを招いて下さっているのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

罪の中にあるわたしたちを、御言葉によって、イエスさまの十字架と復活の救いの御業によって、罪を赦し、新しい命を与え、あなたの子どもとして下さること。イエスさまの兄弟として下さることを、感謝いたします。

わたしたちがただ、そのことを実現して下さる、神さまの御言葉、イエスさまの救いの恵みを信じ、受け入れ、すべてをあなたにお委ねすることが出来るようにして下さい。御言葉を聞き、行なう者として下さい。

またわたしたちは、共に神の言葉にあずかり、共にイエスさまに結ばれ、共に一つの神の家族となった兄弟姉妹を与えられています。神さまの恵みの中に生かされている者として、感謝し、喜び、祈り合い、あなたの御言葉に従って、共に歩いていくことが出来るようにして下さい。

また、あなたはすべての者を、御許に招いておられます。ご自分の子として、迎えようとしておられます。その御心を、一人でも多くの人が、一日も早く知ることが出来ますように。

また、わたしたちもそのために、イエスさまの福音を宣べ伝え、救いへの招きを、イエスさまの家族とされて生きる喜びを、神の言葉を、伝えていくことが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によって祈ります。アーメン